

令和5年度

施設関係者評価表

社会福祉法人 博乃会

認定こども園 日吉台幼稚園

令和5年度 施設関係者評価表

社会福祉法人 博乃会 認定こども園 日吉台幼稚園

1、本園の教育・保育目標

社会福祉法人博乃会の方針である「知育・体育・徳育」の三本の柱を基に、「頭の良い子に」「心の豊かな子に」「意欲溢れる子に」バランス良く育つよう、教育・保育内容の充実を図り、一人一人の個性を尊重し、集団の中で励まし・褒める教育保育を目指す。

◇何事にも集中して粘り強く取り組む姿勢を養い、成し遂げた喜びと満足感が自信になり、それがさらに積極的で明るい人格に育つように導く。

◇素直で思いやりのある子どもに育て幼児の未知なる可能性と伸び伸びした豊かな心を育む。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

行事に向けては、新型コロナウイルス感染症への対策が緩和される予定である為、全職員で意見を出し合い、協力していく事で、子どもたちにとって無理のないペースで取り組み、本番では十分に取り組みの成果を披露ようにする。発表会の各クラスの演目に関しては、前年度の反省を踏まえてより良い方法で進める。今後もより十分に話し合う機会を設けて、全職員の相互信頼を築きながら、教養や音楽等の内容を更に充実させる事が出来るよう、全職員の意識を高め、教育・保育の質を向上していく。

◇様々な活動を通して達成感を味わい、自己肯定感を高められるようにしていく。

◇職員間では、常に情報の共有を図り、協力体制を構築すると共に、保育内容の向上と保育環境の充実を築いていけるように努めていく。

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組み状況
本園の教育・保育課程の編成・実施に関して、職員間の共通理解を図る。	月1回の管理職会議・合同職員会議や年4回の姉妹園との各クラス会議を行う中で、年間を通して、教育・保育要領を共通理解し、保育計画の検討、見直しを行い、先の見通しを持って計画立てて進めていけるようにしている。
認定こども園の状況をふまえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	今年度も引き続き、感染症への考慮をしつつ、行事を通して、子どもたちの日々の取り組みの成果を披露出来る機会を設けていけるようにしている。戸外では、自然物を通して、生き物への関心を深め、発見や驚きを感じながら感性を養えるようにしている。
教育・保育の質の向上のために、園内外研修を充実させる。	研修計画を立て、定期的実施した。 ■心肺蘇生法、エビペン、SIDS研修 ■人権研修 ■キャリアアップ研修 ■栄養士研修 ■感染症への対応方法 ■安全対策への認識の向上

	■和太鼓研修、マーチング研修、造形研修
保護者のニーズの把握に努め、要望や苦情に適切な対応を図る。	日々、園での子ども様子を伝えたり、年1回の個人懇談を通して、家庭での様子を伺ったりして、子どもの成長に繋がるよう、相互理解を深めることが出来た。要望に関しては、新型コロナウイルス感染症対策が緩和はされたが、感染拡大を考慮しながら取り組みを披露できる機会を設けたことで、満足感を得ることが出来た。苦情に関しては、新園舎建設に伴い、園庭のほとんどが閉鎖された中でも戸外で遊べるスペースで遊ぶ機会を多く取り入れたことで苦情に繋がることは無かった。また、その他の教育・保育に関しても感謝の声が多かった。
職員の指導能力向上を図る。	各種研修に参加し、学んだ事を全職員で共有出来るよう、園内研修を行い、全職員が専門分野への知識の向上が出来るように努める事が出来た。
園児に接する時の基本姿勢を周知徹底する。	一人一人の子どもが、安心感を持って生活出来るよう、丁寧に関わりを持つようにしたことで、自立に向けて、成長に繋がるよう適切な対応を心掛けていくことが出来ている。また、その場にあった声掛けや子どもの意欲を向上させる働きかけを行い、子どもの中で“気付き”を大切に教育・保育を進めることが出来た。
食育に関する実践を充実させる。	食への関心を深められるように、月1回の食育活動を実地し、給食では、旬の食材を取り入れ、季節感を味わえるように献立を工夫することが出来た。家庭に対し、献立のみではなく健康や栄養情報の知識や食事作りのアドバイスとして、希望者には人気メニューのレシピを配布し、一人一人の子どもたちの食への関心度を増すことが出来た。
本園の情報を発信する。	本園の教育方針や取り組み状況を園だよりや掲示、その他のプリントで情報発信しているが、来年度以降の目標として、実習生の受け入れ拡大や地域との交流を増やし、本園の良いところを多くの人に理解してもらえる状況を確認していく。
園舎・園庭などの環境整備	9月中旬より本格的に園舎の建て替え工事が開始された。今ある環境を最大限に利用し、姉妹園である認定こども園日吉台保育園の協力を受けながら日々の保育の中では、問題なく取り組みを行うことが出来ている。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に下げられ、様々な行事を開催する事が出来るようになった。保護者から、子どもたちの取り組む姿を実際に観る事が出来、良かったという感想を多く頂いた。運動会についても姉妹園の園庭を借用し、年間を通して取り組んできた成果を十分に発揮することが出来た。また、年間を通して、教育の資質向上に取り組み、子どもたちが意欲的に取り組む事が出来、社会福祉法人博乃会の方針である「知育・体育・徳育」の三本の柱を基に保育を進めることが出来た。

5、今後取り組むべき課題

課 題	
保護者への情報提供とより正確な要望把握	保護者との個人懇談を通して、当園の教育方針に則りつつも、子育て中の保護者が期待するところと保護者の抱える不安を共に考えることが出来るように把握し、園を取り巻く環境や日々の子どもの様子を伝えられるように努める。
感染症予防対策の向上	感染症予防対策として、保育室のこまめな換気や消毒、手洗い・うがいの方法を今後も継続して丁寧に指導し、常に感染症の拡大防止に努める。職員間での様々な感染症への知識を向上していく。
自然災害時の危機管理体制の構築	各地で地震による被害が報告されている為、非常時の危機管理について、子どもの安全安心を第一に訓練を毎月実施し、定期的な会議を設け、職員間で確認を行う。
安全管理の向上	遊具の点検及び園舎・園庭などに危険な箇所がないか日頃から点検確認の管理に努めていく。(毎日、点検記録をつけて管理していく) また、ヒヤリハットが発生した場合は、職員会議で取り入れ、怪我や事故に繋がらないように未然に防げる対策を検討していく。

6、学校関係者の評価

法人の方針を第一に考え、様々な活動や行事の中に取り入れながら、年間を通して計画的に実施出来ている。活動では、スイミングやサッカーを取り入れ、子どもの運動に対する経験を増やすことが出来、楽しんでいる事がよくわかった。行事では、新型コロナウイルス感染症の分類が5類に下げられたことで、感染症予防を行いながら様々な行事に取り組むことが出来ており、保護者からは、保育の中で取り組んできた成果を披露する機会、そして、観覧できる機会を設けたことで、感謝するという気持ちを多く受けていることがわかった。

職員は、各自が研修を通して、教育・保育の資質向上に取り組み、保育内容の充実を図る事が出来ている。姉妹園の職員とも連携を図り、個々の子どもの特徴をどうやって生かし、自信へと繋げることが出来るかをしっかり会議で討論出来ている。

また、感染症予防対策の徹底や子どもたちへの手洗い・うがいの丁寧な指導の実践が日常生活の中で安定して行われており、感染症の拡大も年間を通して無いことがわかった。

以上のように日々の保育を工夫し、取り組む姿勢が認められる為、特に指摘する事項はなく、今後も継続して、子どもたちのことを第一に考え、教育・保育の向上に努めてほしい。